

区 分	高城科目ーキャリア教育科目	担当教員	松本 俊雄			
授業科目	コミュニケーション III					
英 訳	Communication III					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 主としてビジネスの場面を想定し、演習問題により、基本を復習し、応用力の向上を図る。「ロジカルプレゼンテーション」では、論理的に説明する方法を学ぶ。プレゼンテーションの演習場面では、一人一人の演習内容をビデオに撮影し、モニターで振り返りながら、フィードバックを行い、自分の様子を見て、自分の改善課題を理解する。						
【授業の目的】 自分の考えを言葉、文章で明確に伝える方法を学ぶ。その成果に基づき、自分の思いを相手に伝え、相手の行動の変化を求めるスキルの基礎から応用までの力を養成する。						
【到達目標】 ① 演習を通して、「話す」「書く」「聞く」の応用能力を発揮できる。 ② プレゼンテーションを通して、説得力ある伝達ができる。						
【準備学習(予習・復習)】 前回のプリント資料の内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第 1回 「話す」ことの基本① (言葉遣い) 第 2回 「話す」ことの基本② (敬語) 第 3回 「書く」ことの基本① (論理的思考) 第 4回 「書く」ことの基本② (レポート) 第 5回 「書く」ことの基本② (ビジネス文書) 第 6回 「聞く」ことの基本 第 7回 総合演習① 第 8回 ロジカルプレゼンテーションとは 第 9回 プレゼンテーションの情報分析 第10回 プレゼンテーションの組み立て① 第11回 プレゼンテーションの組み立て② 第12回 発声・ボディランゲージ・視覚資料の作成 第13回 演習準備 第14回 演習発表 第15回 演習フィードバック						
【教科書】 プリント資料を配布する。						
【参考書】 授業中に紹介する。						
【成績評価基準】 プレゼンテーション演習評価 (40%)、小テスト (30%)、レポート (30%)						

区 分	高城科目ーキャリア教育科目	担当教員	松本 俊雄			
授業科目	コミュニケーション IV					
英 訳	Communication IV					
配当年次	2年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 「ディベート」と「ネゴシエーション（交渉）」のフレームワークを用いて、実践的な授業を行う。最初に基本知識を学び、その「ディベート」では、提示された論題について準備を行い、試合を行う。「ネゴシエーション」では、様々な状況を設定したケーススタディをもとに、実際にネゴシエーションを行う。理論を学び、実践力を身につける、参画型の授業である。						
【授業の目的】 集団場面で、自分の意見を論理的に述べるとともに、相手の意見を明確に聴き、自分の主張を相手に受け入れさせる方法を学ぶ。 又、交渉において、お互いに利益を得て、満足する方法を学ぶ。						
【到達目標】 ① 演習を通じて、論理的なコミュニケーション能力（ディベート）が発揮できる。 ② 演習を通じて、実践的なコミュニケーション能力（ネゴシエーション）が発揮できる。						
【準備学習（予習・復習）】 前回のプリント資料の内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第 1回 ディベートの基本① 第 2回 ディベートの基本② 第 3回 ディベートの基本③ 第 4回 ディベートの試合準備① 第 5回 ディベートの試合準備② 第 6回 ディベート試合① 第 7回 ディベート試合② 第 8回 ネゴシエーションとは 第 9回 ネゴシエーションを構造的に捉える 第 10回 ネゴシエーションの理論 第 11回 ネゴシエーションの基本戦術① 第 12回 ネゴシエーションの基本戦術② 第 13回 ネゴシエーションの基本戦術③ 第 14回 ネゴシエーションと信頼 第 15回 まとめ						
【教科書】 プリント資料を配布する。						
【参考書】 授業中に紹介する。						
【成績評価基準】 授業への取り組み（70%）、小テスト（30%）						
【メッセージ】 主体的に参画することが求められます。授業が終了した時点で、実践的なコミュニケーションスキルの向上を実感することが出来ます。						

区 分	高城科目－キャリア教育科目	担当教員	大塚 厚二、高石 武史			
授業科目	一般数学 I					
英 訳	Citizen Mathematics I					
配当年次	3年次 後期	必選別	必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 社会人として必要とされる数学の基礎的事項をSPI等の非言語での出題問題を参考に学ぶ授業となっている。広く復習し、会社等で求める数理能力について、各単元において問題の解き方を考えていく。						
【授業の目的】 社会人として必要とされる数学の基礎事項を広く身につける。社会的及び職業的自立を図るために必要な計算力を診断し、不足している計算力を補うことを目指す。						
【到達目標】 実社会での応用を想定したSPI等の各種計算問題を解けるようにする。						
【準備学習(予習・復習)】 授業で学んだこと、解けなかった問題について必ず復習をする。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス 第 2回 仕事に現れる計算 (損益) 第 3回 日常に現れる計算 (料金の割引) 第 4回 仕事に現れる計算 (分割払いなど) 第 5回 日常に現れる計算 (代金の清算) 第 6回 日常に現れる計算 (速さ) 第 7回 仕事に現れる計算 (表の読み取り) 第 8回 仕事に現れる計算 (集計表、割合) 第 9回 推論 (論理) 第10回 推論 (順序づけ) 第11回 推論 (計算による推論、内訳) 第12回 組み合わせ 第13回 確率 第14回 グラフと領域 第15回 全体のまとめ						
【教科書】 授業の際に指定する。						
【参考書】 授業において適宜指示する。						
【成績評価基準】 振り返りテスト (50%)、まとめテスト (30%)、授業態度 (20%) で評価する。						
【メッセージ】 実社会で算数や数学を使うことを想定した問題では、文章を理解して計算式を作れることが求められる。授業での計算は筆算だけで行い、電卓などは使用禁止としている。						

区 分	高城科目ーキャリア教育科目	担当教員	大塚 厚二、高石 武史			
授業科目	一般数学 II					
英 訳	Citizen Mathematics II					
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
<p>【授業の概要】 技術系の能力を測定する数学問題としてCAB/GAB等の技術系就職試験がある。高校で学んだような問題もあるが、これが数学なのかといった問題もある。SPI系が広く社会で求められる算数・数学の知識を見るのに対して、CAB/GAB等の違いを知ってもらい、社会で求められる数理能力を理解する。</p>						
<p>【授業の目的】 技術系社会人として必要とされる数学の基礎事項を広く身につける。</p>						
<p>【到達目標】 技術系社会人を想定した各種計算問題を解けるようにする。</p>						
<p>【準備学習(予習・復習)】 授業で学んだこと、解けなかった問題について必ず復習をする。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 暗算 (問題と解法の解説)</p> <p>第 3回 暗算 (模擬試験と問題の解説)</p> <p>第 4回 法則性 (問題と解法の解説)</p> <p>第 5回 法則性 (模擬試験と問題の解説)</p> <p>第 6回 命令表 (問題と解法の解説)</p> <p>第 7回 命令表 (模擬試験と問題の解説)</p> <p>第 8回 暗号 (問題と解法の解説)</p> <p>第 9回 暗号 (模擬試験と問題の解説)</p> <p>第10回 前半のまとめ</p> <p>第11回 経済事象の説明</p> <p>第12回 表から読み取る経済事象と計算(1)</p> <p>第13回 表から読み取る経済事象と計算(2)</p> <p>第14回 後半のまとめ</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>						
<p>【教科書】 授業の際に指定する。</p>						
<p>【参考書】 授業において適宜指示する。</p>						
<p>【成績評価基準】 まとめテスト (80%)、授業態度 (20%) で評価する。</p>						
<p>【メッセージ】 技術系社会では、このような数学のセンスを必要としているのか、楽しむことが大切。</p>						

区 分	高城科目ーキャリア教育科目	担当教員	松本 俊雄			
授業科目	インターンシップ I					
英 訳	Internship I					
配当年次	3年次 前期	必選別	選択	単位数	1 単位	
【授業の概要】 企業などでのビジネス・インターンシップを効果的に行うために、インターンシップ先の情報収集、応募、決定、事前研修までの一連の流れを実践する。（インターンシップ実習は夏季休暇中）						
【授業の目的】 ① インターンシップの参加することで、実際の働く場で、今後の就職に関する様々な情報を習得する。 ② インターンシップ先の選択、企業情報の収集、応募、実習報告の仕方などを学ぶ。						
【到達目標】 ① インターンシップに参加することができる。 ② インターンシップで、様々な就職に関する情報を得ることができる						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をプリント資料によって理解しておくこと、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第 1 回 インターンシップとは（意義） 第 2 回 働くこととは（何のために働くのか） 第 3 回 職種研究 第 4 回 業界・業種研究 第 5 回 インターンシップエントリー方法の説明 第 6 回 会社宛てエントリー方法の実習 第 7 回 エントリーシートの書き方説明 第 8 回 エントリーシートの作成① 第 9 回 エントリーシートの作成② 第 10 回 エントリーシート提出 第 11 回 仕事の基本（敬語）① 第 12 回 仕事の基本（心構え・マナー）② 第 13 回 仕事の基本（心構え・マナー）③ 第 14 回 レポート、日誌等の作成方法 第 15 回 まとめ						
【教科書】 プリント資料を配布する。						
【参考書】 授業中に紹介する。						
【成績評価基準】 インターンシップ希望先のエントリーシートの評価（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）						
【メッセージ】 就業体験を通して、就職後のキャリアを考える様々な情報を得ることを期待しています。						

区 分	高城科目－キャリア教育科目	担当教員	松本 俊雄			
授業科目	インターンシップ II					
英 訳	Internship II					
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	1単位	
【授業の概要】 夏季休暇中のインターンシップの内容をまとめ、パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを行う						
【授業の目的】 インターンシップの受け入れ企業で就業体験を行い、働く上での様々な経験、知識を得る。 受け入れ先企業とのマッチング成立が前提となります。						
【到達目標】 ① インターンシップの体験を通して、企業での仕事の内容を理解する。 ② インターンシップの体験を通して、自己の働く上での課題を認識する。						
【準備学習(予習・復習)】 インターンシップの体験を記録に残しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス 第 2回 インターンシップ実習報告書作成 第 3回 インターンシップ報告会準備① 第 4回 インターンシップ報告会準備② 第 5回 インターンシップ報告会 (中間発表) 第 6回 発表内容修正 第 7回 インターンシップ発表会① 第 8回 インターンシップ発表会② 第 9回 インターンシップ振替休講 第 10回 インターンシップ振替休講 第 11回 インターンシップ振替休講 第 12回 インターンシップ振替休講 第 13回 インターンシップ振替休講 第 14回 インターンシップ振替休講 第 15回 インターンシップ振替休講						
【教科書】						
【参考書】						
【成績評価基準】 実習報告書の評価 (50%)、発表会でのプレゼンテーションの評価 (50%)						
【メッセージ】 就業体験を通して、就職後のキャリアを考える様々な情報を得ることを期待しています。						

区 分	高城科目ーキャリア教育科目	担当教員	松本 俊雄			
授業科目	キャリアデザイン I					
英 訳	Career Design I					
配当年次	3年次 前期	必選別	必修	単位数	1単位	
【授業の概要】 卒業後のキャリアを考える第一歩として、就職を考える際に必要な基礎知識を学ぶ。次に職業上で目指す将来像を、自己分析、興味・関心・能力、小さい時の夢などから総合的に考え、キャリアビジョンとして「絵」で描く。次にキャリアビジョンを実現するための具体的なキャリア開発計画書を作成し、今後の自己開発への手がかりを得る、						
【授業の目的】 職業上の将来像を、キャリアビジョンの形で描き、今後のキャリアの方向性を定める、一連のキャリアデザインを行う。又、キャリアビジョン実現に向けての具体的方策を考える。						
【到達目標】 ① 様々な情報を基に、自己のキャリアビジョンを描くことができる。 ② 自己のキャリアビジョン実現のためのキャリア開発計画書を作成できる。						
【準備学習(予習・復習)】 前回のプリント資料の内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第 1回 キャリアデザインとは 第 2回 「働く」とは 第 3回 社会環境の分析 第 4回 企業環境の分析 第 5回 労働環境の分析 第 6回 自己分析① 第 7回 自己分析② 第 8回 キャリアビジョンを描く① 第 9回 キャリアビジョンを描く② 第10回 キャリアビジョンを分かりやすく伝える① 第11回 キャリアビジョンを分かりやすく伝える② 第12回 キャリアビジョンのグループ発表&フィードバック 第13回 キャリア開発計画書の作成&グループ発表&フィードバック 第14回 全体発表会 第15回 全体発表会のフィードバック						
【教科書】 プリント資料を配布する。						
【参考書】 授業中に紹介する。						
【成績評価基準】 キャリアビジョンの評価 (40%)、キャリア開発計画書の評価 (20%)、授業への取り組み (40%)						
【メッセージ】 就職活動の第一歩は、自らが目指すキャリアビジョンを明確にすることです。キャリアビジョンを考える場として授業を活用してください。						

区 分	高城科目ーキャリア教育科目	担当教員	松本 俊雄			
授業科目	キャリアデザイン II					
英 訳	Career Design II					
配当年次	3年次 後期	必選別	必修	単位数	1単位	
【授業の概要】 具体的な就職活動の方法について、情報収集の仕方、エントリーシートの書き方、自己PRの仕方、学生時代から身に付けておくことが企業から求められている「社会人基礎力」や「ビジネスマナー」のスキルアップを演習を通して行う。面接演習は、集団と個人に分けて行い、それぞれ結果をフィードバックし、弱点の克服に努めるようにする。						
【授業の目的】 キャリアビジョン実現の場を得るための就職活動において、自信をもって行動できるよう、就職活動に必要な様々なスキルを、演習を通して学び、実践力を身につける。						
【到達目標】 ① 授業中に修得した知識、スキルを用いて、自信をもって就職活動ができる。 ② 演習を通して、説得力あるエントリーシートを書くことができる。						
【準備学習(予習・復習)】 前回行われたフィードバックの内容をよく理解し、次回の演習に活用すること。						
【授業計画】 第 1回 CAREERAPPROACH の実施 第 2回 就職環境の理解/業界・業種研究 第 3回 志望会社選択のポイント 第 4回 会社説明会、会社訪問、先輩訪問のポイント 第 5回 自己PR演習 第 6回 社会人基礎力 第 7回 エントリーシートの書き方① 第 8回 エントリーシートの書き方② 第 9回 エントリーシートの書き方③ 第10回 ビジネスマナー① 第11回 ビジネスマナー② 第12回 集団面接演習 第13回 集団面接演習フィードバック 第14回 個人面接演習 第15回 個人面接演習フィードバック						
【教科書】 プリントを配布する。						
【参考書】 授業中に紹介する。						
【成績評価基準】 エントリーシートの評価 (40%)、面接演習評価 (40%)、授業への取り組み (20%)						
【メッセージ】 厳しい就職活動を勝ち抜く上で、事前準備をしっかりとすることが大切です。本授業を受けることで、自信を持って行動できます。						

区 分	高城科目－キャリア教育科目	担当教員	橋元 純也		
授業科目	特別キャンパス活動				
英 訳	Special Activities on Campus				
配当年次	1年次～3年次	必選別	選択	単位数	1～4単位
【授業の概要】 活動責任者（本大学の教職員）の指導・監督のもと課外活動をおこない、その内容・活動時間に応じて単位が認定される。					
【授業の目的】 ①本大学の教育理念「信和・協同・実践」を具現化するために、②スポーツ活動・芸術活動・ボランティア活動といった各種の課外活動を積極的にこなす学生を支援し、③自主性・コミュニケーション能力・企画力・リーダーシップなどを有して地域社会に貢献する人材を育成する。					
【到達目標】 本大学の教育理念「信和・協同・実践」に則した課外活動に積極的に取り組み、みずからの個性・持ち味に応じた能力を身につける。 ※科目「特別キャンパス活動」活動グループ自己評価表（下記URL参照） http://www.hkg.ac.jp/~hashimoto/blog/rubrics-saoc					
【準備学習(予習・復習)】 活動中およびその前後において、活動責任者との連絡を密にし、その指導・監督を仰ぐこと。					
【授業計画】 1. 「教育計画書」の提出 活動学生が単位取得を希望する場合、学生の自治組織である学友会所属のクラブ・サークルなどの団体、および学友会以外の自主的な活動団体・個人を指導・監督する活動責任者（本大学の教職員）に「教育計画書」の提出を求める。「教育計画書」には、活動グループ名・活動責任者名の他、活動の目的・活動期間・活動の概略・参加学生リストなど必要事項を記載する。 2. 「活動認定書」他の提出 活動責任者が活動終了後に単位認定を申請する場合、「活動認定書」の提出を求める。「活動認定書」には、活動によって得られた教育効果などを記載するとともに、単位認定を申請する活動学生リスト（学生番号・氏名・活動の合計時間）、および活動内容資料（活動記録・写真・ブログ記事・報道資料など）を添付する。またその際、自己評価表（上記 URL 参照）を提出も求め、本大学の教育理念「信和・協同・実践」に則した活動であることを確認する。 3. 審査と単位認定 提出された「教育計画書」「活動認定書」および添付資料は、総合教育センター長の招集する総合教育センター連絡会において審査し、活動時間・内容に応じて、活動学生ごとに単位を認定する。なお、科目担当者は、各活動責任者との連絡、提出書類のとりまとめ、単位認定の原案作成などを担当する。					
【教科書】					
【参考書】					
【成績評価基準】 成績評価は合否判定方式でおこなう。なお、合格の場合の取得単位数は、原則30時間の活動で1単位とし、半期2単位まで、合計4単位までの認定とする。					
【メッセージ】 単位認定時期は3年生後期ですが、集中講義扱いなので科目履修登録は3年生前期におこなってください。					